

社是に掲げた「お客様」と 社名に込めた「パイオニア精神」で、 お客様の声に耳を傾け、 業界初の製品を創り続ける

お客様の声に耳を傾け、業界初の製品を 作り続けるプラスチック容器のパイオニア

パイオニア工業は、1958年（昭和33年）創業のペットボトル、ポリボトルなどのプラスチック容器の専門メーカーである。

創業者の経営哲学である「価値の無い物に価値を創れ」という教えを根幹に置き、社是に掲げる「お客様」、社名に込めた「パイオニア精神」に則り、お客様の声に耳を傾けることに徹し、数々の業界初となる容器や環境にやさしい容器を開発し続けている企業である。

大手2社が市場の半分以上を占めるというプラスチック容器の業界で、お客様のニーズに深く刺さっていく開発姿勢、お客様の要望に小回り性を発揮しとことん応えていく対応力等で、きらりと光る顧客価値を創出し「パイオニア工業は無理が利く」「大手がやってくれないことでも動いてくれる」などと、お客様から高い信頼を獲得している。

ボトルの生産量は大小合わせて年間1億9千万本、100種類以上にのぼり、なかでも調味料や焼酎のボトル、把手付きのボトルでは高い支持を集めている。

お客様のニーズにとことん向き合う 開発姿勢と技術力

みりんや醤油が入った把手付きペットボトルは2種類の特許を取得したパイオニア工業オリジナルの開発商品である。把手付きの大型ボトルは同社の主力商品の一つで



アサヒビール技術開発賞の製品

企業概要		DATA
企業名	パイオニア工業株式会社	
代表者	秋山 茂樹	
所在地	北九州市門司区新門司一丁目9番2号	
TEL	093-481-6800	
FAX	093-481-6711	
資本金	3,000万円	
創業	1958年	
従業員数	230人	
事業内容	ペットボトル、ポリボトルの製造・販売	
URL	http://www.pioneer-bottle.co.jp/	



あるが、PET樹脂は硬く、ポリ樹脂と比べるとのび難いため、ペットボトルに把手を装着する構造は技術を要し、現在でも対応できるメーカーは大手も含め数社ほどにとどまっている。同社では、把手付き4ℓボトルで軽量化も進め、現在109.5gと国内最軽量ボトルを製造販売している。

この最軽量ボトルは、アサヒビール（株）と共同で開発したもので、減圧等の変形や輸送時のつぶれへの対応、飲料を充填する工場での生産性対策、ユーザーが使いやすいボトルにするための工夫など、パイオニア工業の技術者がとことんニーズに向き合ってきた賜物でもある。

なお、この開発にはアサヒビール（株）から、技術開発賞が授与され、「かのか」や「大五郎」といった焼酎の容器として、店頭と並んでいる。

小型ボトルでも業界初の製品を開発している。200ml、220mlの広口ミニボトルでは、キャップとボトルの間のシーリング性を高めるために、従来はパッキンを装着し対応していたが、同社はメルシャン（株）と共同でパッキンレスのボトルを開発、省資源や環境対策につなげている。この開発に当たっては、キャップとボトルとのシーリング性を高めるかみ合わせ構造の開発やユーザーが蓋を開閉するときの使用感まで、工夫が及んだという。パッキンレスボトルは、メルシャンの焼酎「三楽」など、多くの顧客に採用され、業界No.1の実績を誇っている。

このように、社是に掲げる「お客様」を原点に、お客さまのニーズに真摯に向き合う開発姿勢が、業界初の製品を産み出していく原動力となっている。

お客様志向で徹底している営業、開発、生産体制

営業面を見ると、お客様は一部上場企業から地方の小規模な事業者まで千差万別、幅広く取引している。社是に掲げるのは「お客様」、どのようなお客様でも大切に対応し、ご要望に応じていくのがパイオニア工業の営業という。お客様の要望に対し「すぐにやる、必ずやる、できるまでやる」を合言葉に、開発、生産部門と連携したお客様対応が当社の強い武器になっているようである。

開発面を見るとお客様の要望をヒアリングすることから開発はスタートする。今まで培ってきた技術をもとに、最終的にはお客様の要望をCADで図面に落とし込み、3D解析ソフトを使いボトル強度などを評価・確認、さらには3Dプリンターを使い試作ボトルを作製する。実物大の試作品をお客様に提出することで、お客様は手に取って新商品の



代表取締役社長
秋山 茂樹 氏
1967年生まれ。北九州市若松区出身。若松生まれの若松育ち。1985年、高卒2期生として入社。入社後、製造部、業務部、営業部と様々な部署を渡り歩き製造本部長を経て、2016年社長に就任。創業者から様々な部署を経験させて頂いた事で、各部署の苦勞や大変な職務等も把握する事ができ、相手の立場を理解した上での陣頭指揮を取る事ができた。今後も社是である「お客様」を基に、お客様の為に、お客様の笑顔を求め、ニーズを先取り、追究し、お客様の満足度を求めて技術を向上させ続け、「パイオニア工業だから出来る」「パイオニア工業しか出来ない」商品をもって社会や地域に貢献し続ける事を目指す。

検討、確認ができるという。この試作品の作成にかかる最短納期は2日で対応でき、急ぎの顧客には、大変好評を博しているという。その後、必要に応じて生産ライン設備も導入するが、成型機から出てきたボトルが流れる搬送ラインは、検査機や自動梱包機も含め手作りで組み上げる。そうすることで投資コストが抑えられたフレキシブルな生産ラインとなる。

生産面を見ると、小型ボトルから大型ボトル、耐熱ボトルやハイバリアボトル、またPETの他にポリプロピレンやポリエチレンなど素材にもバラエティがある中で、大ロットから小ロットまでフレキシブルな生産体制を構築している。お客様の急な納期変更に対応したり、本業ではないラベル貼りやボトルの箱入れまで顧客の要望にこたえて対応しているという。

こうした各部門のお客様志向の取り組みが「パイオニア工業に頼めば何とかしてくれる」という、お客様の厚い信頼につながっていることは想像に難くない。



きめ細かな試作品開発

取材を終えて

パイオニア工業は技術力と共に、顧客の要望や抱える課題にとことん向き合い、それを真摯に解決しようとする顧客対応力が、オンリーワンの原動力になっている。そしてその背景には、創業者の教えや社是を経営の根幹に置き、誠実に実践してきた経営があることは確かであろう。